

☆年間第17主日(7月24日)の聖書朗読☆※主任司祭からの解説があります。

第一朗読 (創世記 18章 20-32節)

その日、主は言われた。「ソドムとゴモラの罪は非常に重い、と訴える叫びが実に大きい。わたしは降って行き、彼らの行跡が、果たして、わたしに届いた叫びのとおりかどうか見て確かめよう。」その人たちは、更にソドムの方へ向かったが、アブラハムはなお、主の御前にいた。アブラハムは進み出て言った。「まことにあなたは、正しい者を悪い者と一緒に滅ぼされるのですか。あの町に正しい者が五十人いるとしても、それでも滅ぼし、その五十人の正しい者のために、町をお赦しにはならないのですか。正しい者を悪い者と一緒に殺し、正しい者を悪い者と同じ目に遭わせるようなことを、あなたがなさるはずはございません。全くありえないことです。全世界を裁くお方は、正義を行われるべきではありませんか。」主は言われた。「もしソドムの町に正しい者が五十人いるならば、その者たちのために、町全部を赦そう。」アブラハムは答えた。「塵あくたにすぎないわたしですが、あえて、わが主に申し上げます。もしかすると、五十人の正しい者に五人足りないかもしれません。それでもあなたは、五人足りないために、町のすべてを滅ぼされますか。」主は言われた。「もし、四十五人いれば滅ぼさない。」アブラハムは重ねて言った。「もしかすると、四十人しかいないかもしれません。」主は言われた。「その四十人のためにわたしはそれをしない。」アブラハムは言った。「主よ、どうかお怒りにならずに、もう少し言わせてください。もしかすると、そこには三十人しかいないかもしれません。」主は言われた。「もし三十人いるならわたしはそれをしない。」アブラハムは言った。「あえて、わが主に申し上げます。もしかすると、二十人しかいないかもしれません。」主は言われた。「その二十人のためにわたしは滅ぼさない。」アブラハムは言った。「主よ、どうかお怒りにならずに、もう一度だけ言わせてください。もしかすると、十人しかいないかもしれません。」主は言われた。その十人のためにわたしは滅ぼさない。」

第二朗読（使徒パウロのコロサイの教会への手紙 2章 12-14節）

皆さん、あなたがたは、洗礼によって、キリストと共に葬られ、また、キリストを死者の中から復活させた神の力を信じて、キリストと共に復活させられたのです。肉に割礼を受けず、罪の中にいて死んでいたあなたがたを、神はキリストと共に生かしてくださったのです。神は、わたしたちの一切の罪を赦し、規則によってわたしたちを訴えて不利に陥れていた証書を破棄し、これを十字架に釘付けにして取り除いてくださいました。

福音朗読（ルカ 11章 1-13節）

イエスはある所で祈っておられた。祈りが終わると、弟子の一人がイエスに、「主よ、ヨハネが弟子たちに教えたように、わたしたちにも祈りを教えてください」と言った。そこで、イエスは言われた。「祈るときには、こう言いなさい。

『父よ、

御名が崇められますように。

御国が来ますように。

わたしたちに必要な糧を毎日与えてください。

わたしたちの罪を赦してください、

わたしたちも自分に負い目のある人を皆赦しますから。

わたしたちを誘惑に遭わせないでください。』

また、弟子たちに言われた。「あなたがたのうちのだれかに友達がいる、真夜中にその人のところに行き、次のように言ったとしよう。『友よ、パンを三つ貸してください。旅行中の友達がわたしのところに立ち寄ったが、何も出すものがないのです。』すると、その人は家の中から答えるにちがいない。

『面倒をかけないでください。もう戸は閉めたし、子供たちはわたしのそばで寝ています。起きてあなたに何かをあげるわけにはいきません。』しかし、言うておく。その人は、友達だからということでは起きて何か与えるようなことはなくても、しつように頼めば、起きて来て必要なものは何でも与えるであろう。そこで、わたしは言うておく。求めなさい。そうすれば、与えられ

る。探さない。そうすれば、見つかる。門をたたきなさい。そうすれば、開かれる。だれでも、求める者は受け、探す者は見つけ、門をたたく者には開かれる。あなたがたの中に、魚を欲しがる子供に、魚の代わりに蛇を与える父親がいるだろうか。また、卵を欲しがるのに、さそりを与える父親がいるだろうか。このように、あなたがたは悪い者でありながらも、自分の子供には良い物を与えることを知っている。まして天の父は求める者に聖霊を与えてくださる。」

朗読解説 一主任司祭より皆様へ一

コロナな感染者が東京では3万人を超える勢いです。身近なところで感染が拡大しているのです。あらためて感染予防、特に三蜜を避けていきましょう。また、雨の季節が去り、夏本番の暑さがぶり返しています。熱中症に気をつけましょう。

さて、今日の主日には「祖父母と高齢者のための世界祈願日」の祈りが求められています。日本では特に高齢者の方が大勢いますのでその健康のために、そして、孤独のうちに生活されておられる方が多くいらっしゃいますので、見守りなどの配慮が必要ですね。今日のミサの朗読では神への諦めることない祈りは聞き入れられることが記されています。

第一朗読（創世記18章20-32節）

今日の箇所は先週日曜日に読まれた箇所の続きになります。罪に汚れた町ソドムとゴモラを滅ぼそうと考えられている神に対しアブラハムは「その町に五十人の正しい人がいればそれでも滅ぼされますか」と主である神に問いかけます。何とかしたいアブラハムの交渉が粘り強く続きます。最後には十人まで・・・と交渉しますが、とうとうソドムとゴモラは滅ぼされてしまいます。アブラハムの「できるだけ多くの人を救いたい」気持ちが現わされた箇所ですね。私たちの心には悪人を排除するという誘惑がいつもありますが、父なる神の心は「できるだけ多くの人を救いたい」というところをアブラハムが表現して

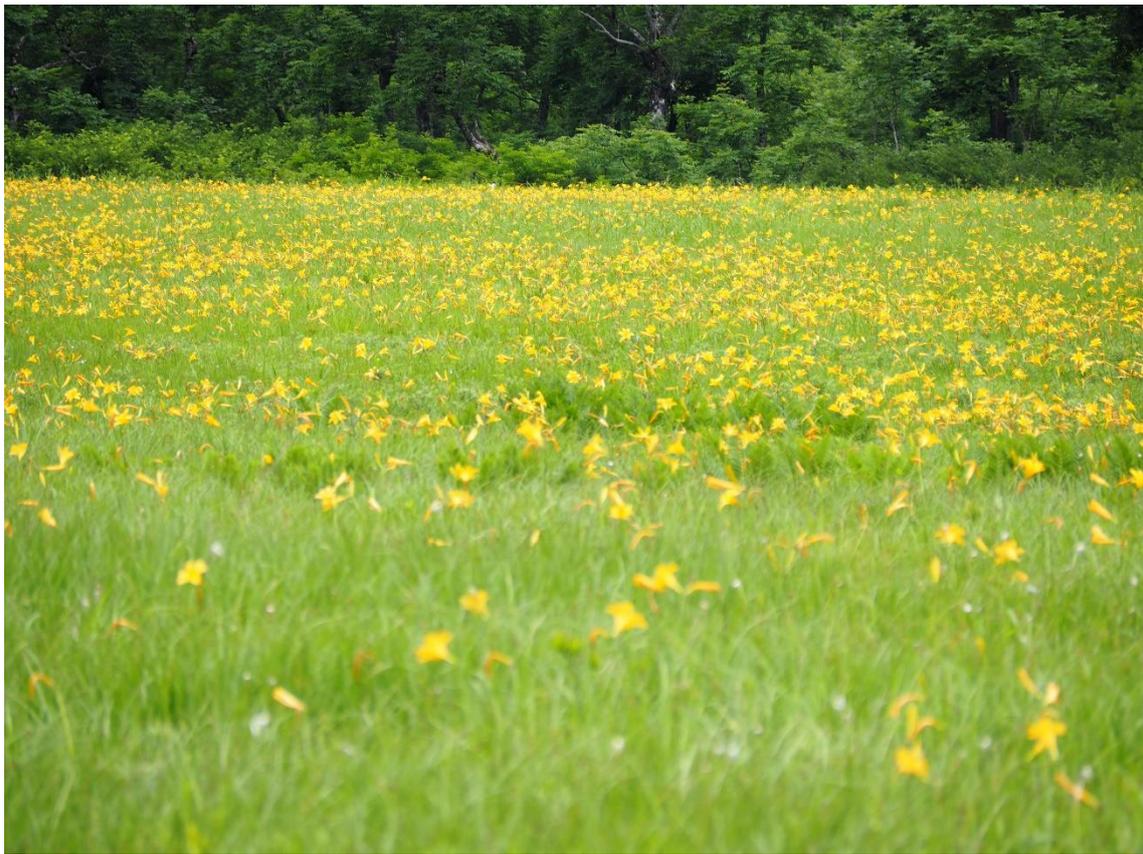
いるのではないしょうか。私たちもアブラハムの心に従って、より多くの人の救いのために祈りましょう。

第二朗読（使徒パウロのコロサイの教会への手紙 2 章 12-14 節）

パウロは誕生して間もないコロサイの教会に手紙を書いて信徒の皆さんを励ましています。このころはまだキリストを信じるにしても割礼が必要だと主張する人たちがいたようです。それに対してパウロは割礼を受けていなくても、洗礼によってキリストとともに葬られた私たちはキリストと共に復活する恵みをキリストによって与えられたのだと述べています。罪の中に死んでいた私たちを神はキリストと共に生かしてくださったのです。だからキリストに結ばれて生活することが大切ですとパウロは私たちに勧めています。

福音朗読（ルカ 11 章 1-13 節）

今日の福音も先週に引きつづいています。ここではイエスが弟子たちに祈りを教えてくださいとせがまれて、「祈るときにはこう祈りなさい」と教えられています。またイエスは私たちに願いが叶うまで祈るように、執拗に祈るようにと勧めて、譬えを話されています。この個所は第一朗読で読まれたアブラハムの祈りを彷彿とさせます。そして「求めなさい、探しなさい、門をたたきなさい」と勧められます。なぜなら父なる神は「自分の子どもには良いものを与えられる神」だからといわれるのです。イエスが人々に語って聞かせる神は父なる神なのだということです。父なる神はどのような人にとっても父なる神です。広い心を持たれる父なる神に私たちもあきらめずに祈り続けましょう。



ニッコウキスゲの群落（尾瀬ヶ原）2022年7月

P.S.

先日、尾瀬ヶ原に行ってきました。たくさんのニッコウキスゲが咲いている様子を想像しながら歩いていたのですが、その想像は裏切られ、ほとんど咲いていませんでした。最近では全国でもそうですが、野生の動物たちが食べ物を求めて里に下りてきているように、尾瀬ヶ原では鹿たちが湿原に入り込んで、ニッコウキスゲなどを食べているようで、その食害から湿原を守ろうと網が張り巡らされていました。ヨツピ橋からの帰り道にかろうじて守られたエリアがあり、ニッコウキスゲの群生を見ることが出来てほっとした次第です。

カトリック足立教会
主任司祭 野口重光